

～あなたの子牛、元気ですか！？～

哺育だより

平成26年8月1日発行
第25号
発行責任者 阿部孝
編集担当者 安田元
発行所 東北刈刈機
酪農機械部
宮城県大崎市古川
新田字泉屋敷59-4
TEL(0229)26-4330
FAX(0229)26-4338

第25号

オランダ 酪農視察レポート②

8月、2014年も折り返し地点となりました！残夏に向かう季節、皆様の子牛はお元気でしょうか!?
6月にオランダを訪れる機会を得ました。今月も引き続いてレポートをお届けいたします。

訪問した牧場名：Theo Oliselager牧場（ヤギ牧場）

- ①ヤギ搾乳頭数：4,170頭
- ②従事者数 朝/夕の搾乳・ヤギ舎管理を3人でそれぞれ一人ずつ担当
- ③主な導入機械
 - ・搾乳パーラー（21W）
 - ・自動給飼機、初乳加温器も利用(デンマーク製)
- ④経営の特徴
 - ・両親、兄弟の牧場でそれぞれヤギを飼養していた。自らの群のほか、カナダからも導入した。
⇒ヤギを搾乳する理由は、酪農に比べて搾乳設備含めて初期投資が少なくすんだ為。
 - ・餌は、トウモロコシ+乾草+配合(3種類)を調整。
自動給飼機を使用。



オーナーの居宅



給飼も省力化している



←搾乳パーラー
清潔に管理されている

(裏面に続きます)

おまけの写真



「恋文」
ヨハネス・フェルメール
アムステルダム国立美術館
が収蔵しています

編集後記

平成24年の8月から毎月発行してきた『哺育だより』。これまで、元気な子牛を育てるため情報や海外のレポートなど幅広い情報を取り上げて参りました。初乳の重要性や糖度計を用いた初乳の本質の確認方法やパスチャライザーについてのご質問をお受けし、本誌面を充実することができました。定期発行は本号をもって終了し、今後は不定期にニュースをお届けして行きたいと考えています。
これまでの皆様のご支援に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

オリオン パスチャライザー MAM(マム)シリーズ ご紹介



MAM12A (12ℓ)



MAM30 (15ℓ×2缶)

MAM(マム) 初乳・移行乳加熱装置

「マム」は、初乳に含まれる牛白血病ウイルス、ヨーネ菌、サルモネラ菌、大腸菌やマイコプラズマなどを60℃ 30分の加熱でシャットアウトし、移行抗体である免疫グロブリンや、タンパク質をきれいな状態で子牛に給与するお手伝いをします！

加熱による初乳の「免疫グロブリン」は死滅しません！！

(オランダ酪農視察レポート続き)

- ・ヤギ泌乳3.6kg/日、生乳は15,000kg/日を2つの乳業会社に出荷している。
- ◎乳価支払いの良い会社を選んでいる。集荷は週に2回。
⇒乳価73円(約102円)と高い。
餌代がこの5年で2倍になったが、乳価が高いために経営が成立している。
- ※4000頭のヤギを少ない人数で飼養管理できるのは、省力化の恩恵であるが、ヤギを衛生的に飼養することを大切にしている。



衛生的に飼養することを心掛ける



カーフハッチならぬ「ゴートハッチ」!?
敷料をこまめに変えている



作業小屋
整理整頓を心掛けている